



# 大阪府済生会千里病院 地域支援センター 地域医療連絡室だより

編集・発行

済生会千里病院 地域支援センター  
地域医療連絡室  
〒565-0862

吹田市津雲台 1-1-6

TEL 0120-115-031 (登録医専用)

FAX 06-6871-5915



## 平成 21 年度 登録医会秋季研修会並びに学術講演会

平成 21 年 9 月 5 日 (土) 15 時 30 分～ 千里ライフサイエンスセンター5 階サイエンスホールにて開催されました。

### 学術特別講演

「糖尿病診療の新しい展開に向けて」

大阪大学大学院 医学系研究科 内分泌・代謝内科学 講師 松久 宗英 先生

わが国において、糖尿病患者は毎年 20 万人ずつ増加し、心血管疾患合併患者も増加し続けている。この糖尿病の進展及び動脈硬化疾患の発症には、細胞内環境が重要である。特に、高血糖や脂肪酸により惹起される酸化ストレスはその中心的役割を担うと考えられ、我々の成績を中心に解説する。

糖尿病において、膵β細胞機能障害(インスリン分泌障害)は発症以前より進行性の悪化するこ  
とが示唆されている。この膵β細胞は、抗酸化酵素の発現が低く、酸化ストレスに曝されやすい特徴をもつ。β細胞内で惹起された酸化ストレスは、インスリンの生合成を抑制するとともに、GLUT2 やグルコキナーゼの発現を低下させグルコース応答性インスリン分泌を低下させる。このインスリン生合成の低下において、インスリン転写調節因子である PDX-1 と MafA が中心的役割を担うことを見出した。さらに、これらの上流には酸化ストレスによる JNK シグナルの活性化が関与し、この活性化は最終的にβ細胞のアポトーシスを引き起こし、β細胞数の減少に繋がる。したがって、進行性の膵β細胞障害の成因の一部は、酸化ストレスによることを明らかにできた。



松久 宗英 先生

一方、膵β細胞機能とともに糖尿病の病態を形成するインスリン抵抗性に関しても酸化ストレスが関与することが知られている。そこで、我々は糖尿病モデルマウス (db/db マウス) に JNK 阻害蛋白を用いて酸化ストレスシグナルの抑制を試みた。その結果、肝臓および骨格筋でのインスリン作用が改善し、耐糖能が劇的に改善することを認めた。



座長 糖尿病内科部長  
鈴木 正昭

また、糖尿病大血管障害に対して、酸化ストレスの意義を解析するため酸化ストレスに関連する 4 つの遺伝的多型 (Glutamate-cysteine ligase, modifier subunit(GCLM) C-588T, Myeloperoxidase(MPO) G-463A, Paraoxonase1(PON1) G-192A, NADPH oxidase p22phox C-242T) について検討した。これらの、遺伝子多型は単独では動脈硬化の進展への関与は低いが、

これらが集積により酸化ストレスマーカー 8OHdG の血中レベルが上昇し、動脈硬化の surrogate マーカーである頸動脈の中膜内膜肥厚度 (IMT) が進展した。また、心筋梗塞の発症に関与することを示した。

以上の我々の成績から、酸化ストレスはその受けやすさに固体差が存在するが、糖尿病の病態および合併症の進展に重要であり、その効率的な抑制は幅広い臨床効果が期待される。



### 学術講演

「総合診療部が経験したいくつかの症例」

済生会千里病院 第三診療部長 向仲 真蔵



第三診療部長 向仲 真蔵

私たち総合診療部は、内因性疾患の初診患者さんを対象に診療を行っております。

当部への来院患者さんの約半数は呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患に分類され、それぞれの専門診療科に治療をお願いすることが多くあります。その他の疾患が主な私たちの対象となりますが、そのなかでも頭痛を訴える患者さんが多く訪れてこられます。一次性頭痛の患者さんが最も多いのですが、意識障害を伴わない脳出血(皮質下出血など)や群発頭痛、後頭神経痛の患者さんの治療を行っております。また急性副鼻腔炎などの炎症

性疾患や胸痛を訴える縦隔気腫、縦隔腫瘍などの患者さんや腹痛を訴えるアニサキス症や腸チフスなどの患者さんの診察も行い、院内他科や病病連携を保って適切な医療の提供に努めております。

種々雑多な症状に対応できるよう研鑽を積んで参りますので、よろしくご指導をお願いいたします。

### 「大腿骨頸部骨折に対する地域連携パスの運用」

済生会千里病院 整形外科主任部長 庄司 恭之

大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパスの運用を開始し2年になるので紹介します。

地域連携の意義は機能分化と連携による「地域完結型医療」と表現されています。そしてその目標は 自宅復帰あるいは術前の活動性に回復することです。

H19年9月に3院で運用を開始、現在7院と連携中で、年3回連携病院が集まり合同検討会を開催しています。

全例にパス適応の検討を行い、術後2週で転院とし総治療期間は2ヶ月程度になります。連携開始後 2年間で平均82.6歳、93例が適応されました。手術数、適応数ともに初めの1年の2倍になりました。平均在院日数は平成18年26.1日、20年は19.6日になりました。

このようなシステムが地域医療全体の連携になっていくことがのぞましいと考えています。その中身は骨折予防、QOL改善へとつながることを期待しています。一方患者サイドに立った場合、合併症の発生などよいことばかりではない側面もありきめ細かいサービスが必要です。



整形外科主任部長 庄司 恭之

### 懇親会の様子



当日は開業医の先生方41名、医療関係者6名、千里病院職員49名、計96名の参加を頂きました。

懇親会では出席した当院の医師全員が自己紹介をすることで、登録医の先生方に顔と名前を覚えて頂き、より顔の見える病診連携の推進に繋がりたいと願っています。

次回のご参加を心よりお待ちしております。

地域医療連絡室スタッフ一同



### 第18回整形臨床カンファレンスのご案内

日時：平成21年11月19日（木）午後7時30分～

場所：済生会吹田病院 本館3階 講堂

【症例検討】済生会吹田病院、済生会千里病院、ほか

【講演】『運動器超音波診断の新時代』

済生会吹田病院 整形外科医長

平田 正純 先生

※会費として500円徴収させていただきます。（軽食付）

### 第12回千里臨床カンファレンスのご案内

日時：平成21年12月19日（土）14:30～16:00

場所：済生会千里病院 東館3階 研修室

※ 詳細は後日ご案内させていただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

